

漁況の特徴

7 - No. 4 O

属地、単位＝四捨五入

12/25～1/7

◎

まき網

(漁獲は1投網当り)

マイワシ・・・川尻の南東15マイル付近から那珂湊の東15マイル付近で1～55トンの漁獲。

サバ・・・川尻の南東15マイル付近から那珂湊の東15マイル付近で1～55トンの漁獲。

ウルメイワシ・川尻の南東15マイル付近で1～20トンの漁獲。

◎

小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大洗地先で21～283kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先でヒラメ3～5kg、久慈浜地先から鉾田地先でヒラメ1～35kg、イナダ1～5kg、ホウボウ1kg前後、タチウオ1kg前後の漁獲。

◇タコツボ

鹿島地先でマダコ30～250kgの漁獲。

魚種	漁法	組合名	水揚げ kg	平均単価	水揚げ金額 円	延隻数
シラス	船曳網	川尻	47	260	12,220	29
	"	大洗町	4,268	981	4,186,230	
ヒラメ	小底5t以上	平潟	303	1,628	493,639	
	"	川尻	125	1,516	189,780	
	"	久慈町	25	1,936	48,000	
	"	那珂湊	124	1,943	239,985	
	その他釣り	平潟	55	2,785	153,148	
	"	川尻	64	2,332	148,300	
	"	久慈浜丸小	4	3,000	12,600	
	"	久慈町	14	1,239	16,720	
	"	那珂湊	63	2,618	164,670	
	大型定置網	会瀬	33	3,035	99,257	
マコガレイ	大型定置網	会瀬	1	200	220	
タイ類	小底5t以上	平潟	475	579	275,043	
	"	川尻	92	404	37,190	
	"	那珂湊	9	719	6,470	
	大型定置網	会瀬	50	690	34,491	
スズキ	小底5t以上	平潟	61	463	28,356	
	"	川尻	2	300	540	
	大型定置網	会瀬	23	635	14,736	
アナゴ	小底5t以上	平潟	420	202	84,710	
	"	川尻	48	400	19,360	
	"	久慈町	16	254	4,120	
	"	那珂湊	162	920	149,220	
アンコウ	小底5t以上	平潟	163	580	94,320	
	"	川尻	166	510	84,520	
	"	久慈町	176	446	78,735	
	"	那珂湊	83	1,246	103,670	
	大型定置網	会瀬	13	264	3,460	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	159	526	83,721	
	"	川尻	107	287	30,555	
	"	那珂湊	70	818	56,964	
	その他釣り	川尻	1	2,000	2,000	
	大型定置網	会瀬	4	959	3,836	
フグ類	小底5t以上	平潟	42	2,336	98,822	
	"	川尻	77	428	32,895	
	"	那珂湊	7	1,328	8,900	
	延縄	大洗町	12	4,550	54,600	
サワラ	その他釣り	久慈浜丸小	12	2,500	29,500	
	"	久慈町	13	2,500	31,750	
	"	那珂湊	54	2,275	122,190	
スルメイカ	小底5t以上	平潟	335	829	277,800	
	"	川尻	209	841	175,660	
	"	久慈町	293	760	222,225	
	"	那珂湊	236	916	215,990	
ヤリイカ	小底5t以上	平潟	176	210	37,010	
	"	川尻	566	872	492,856	
	"	久慈町	707	895	632,800	
	"	那珂湊	284	712	202,350	
マダコ	小底5t以上	平潟	14	681	9,323	
	"	川尻	48	750	36,320	
	"	那珂湊	5	2,328	10,940	
	その他釣り	平潟	26	963	25,028	
	タコ壺	はさき	1,994	1,507	3,004,270	
マアジ	小底5t以上	平潟	9	277	2,410	
	"	川尻	3	100	250	
	"	久慈町	27	181	4,860	
	"	那珂湊	26	551	14,435	
	大型定置網	会瀬	2,821	405	1,141,410	
サバ	小底5t以上	平潟	540	37	20,000	
	"	川尻	30	20	608	
	"	久慈町	7	30	210	
	大型定置網	会瀬	559	356	199,215	
ブリ類	その他釣り	川尻	18	340	6,010	
	"	久慈浜丸小	4	200	800	
	"	久慈町	17	388	6,600	
	"	那珂湊	79	819	64,490	
	大型定置網	会瀬	117	577	67,646	

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

長期漁海況予報（令和8年1月～6月の予測）について

令和7年12月23日～24日に令和7年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報会議が開催されました。予報対象海域に関係する水産関係試験研究機関が参加・検討を行い、国立研究開発法人水産研究・教育機構が予報文をとりまとめ、12月26日に公表されましたのでお知らせします。予報内容の詳細については本文を参照ください。（予報本文 URL：https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/fri_20251226_ukiuo-pac-2nd.html）

1. 海況

(1) 黒潮（潮岬以東）

- ・3月までC型で推移し、その後はN型基調となる。
- ・遠州灘では、3月までは離岸傾向で推移し、その後は接岸傾向となる。
- ・房総沖では、接岸傾向で推移するものの、野島埼沖では離岸することがある。

(2) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・断続的に黒潮系暖水の影響がみられる。

(3) 沿岸水温

- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。

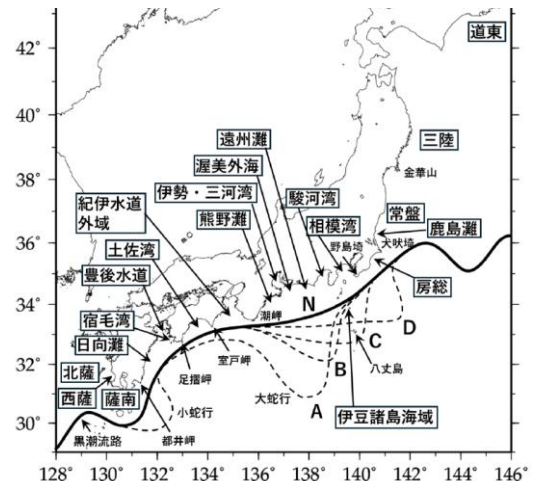


図. 予報対象海域および黒潮の流型

2. 漁況

(1) マサバ・ゴマサバ（犬吠埼沖～三陸海域：まき網、定置網、底曳網）

- ①来遊量：マサバはまき網では極めて低調であった前年並、定置網、底曳網では前年を下回る。ゴマサバは混獲される程度で低水準。サバ類全体としては低調であった前年並。
- ②漁期・漁場：まき網では期を通じて犬吠埼沖～常磐南部海域が主漁場となり、期後半には三陸南部海域にも漁場が形成される。三陸海域の定置網、底曳網ではマサバは1月、2月および4月以降に漁獲され、ゴマサバは5月以降に漁獲される。
- ③魚体〔尾叉長〕：マサバは期を通じて25cm～38cm（3歳魚、4歳魚、体重150g～620g）主体に、18cm～30cm（1歳魚、2歳魚、50g～280g）、28cm以上（5歳以上、220g以上）も漁獲される。

(2) マイワシ（房総～三陸海域、道東海域：まき網、定置網）

- ①来遊量：前年を下回る。
- ②漁期・漁場：1そうまきの漁場は、1月～5月は犬吠埼沖～三陸南部海域で形成され、6月以降は犬吠埼沖～三陸北部海域、6月下旬には道東海域でも形成される。2そうまきの漁場は、期を通じて房総海域～鹿島灘に形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。
- ③魚体〔被鱗体長〕：10cm～15cm前後（1歳魚、体重10g～40g）、14cm～18cm前後（2歳魚、30g～65g）、15cm～19cm前後（3歳魚、40g～80g）、17cm～21cm前後（4歳魚、55g～100g）、19cm以上（5歳以上、75g以上）。まき網では2歳魚～4歳魚主体。

(3) カタクチイワシ（房総～三陸海域、道東海域：まき網、定置網）

- ①来遊量：房総海域では低調であった前年並。三陸南部海域～仙台湾では前年並～上回る。常磐海域、三陸北部海域および道東海域では主たる漁獲対象とならない。
- ②漁期・漁場：房総海域の2そうまきでは期を通じて漁獲される。三陸南部海域～仙台湾の定置網では1月に終漁し、4月に初漁となる。1そうまきの主な漁獲対象にはならない。
- ③魚体〔被鱗体長〕：9cm～12cmの1歳魚（7g～17g）を主体に、10cm～13cmの2歳魚（10g～22g）が漁獲される。

（回遊性資源部）

【次回予告】R8. 2. 6 発行の「水産の窓」は、「冬季底魚資源調査結果」を予定しています。

令和7年の調査でみられた珍しい魚

水産試験場では、水産資源や海の環境を調べるため、調査船による調査や、市場の水揚げ物調査を継続的に行っています。こうした調査の中で、これまで茨城県沖では確認されていなかった“珍しい魚”を発見することがあります。そのような魚の出現は、海水温の上昇や海流の変化など、海洋環境の変動を反映している可能性があり、貴重な指標となるかもしれません。したがって、これらの記録を残すことは、海の変化を読み解く上で重要です。

ここでは、令和7年に茨城県沖で混獲され、これまで論文等の正式な文献記録がなかった魚種を紹介します。記録の証拠として後世に引き継ぐため、魚そのものが手に入った種については、標本を国立科学博物館(NSMT)に、撮影のみできた種については、写真を神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料コレクション(KPM-NR)として登録させていただきました。各種の標準和名の下番号は、標本または写真の登録番号を表しています。

ハナザメ *Carcharhinus brevipinna*

NSMT-P 154084, 全長 100.8 cm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年8月5日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。最大で 3 m ほどに成長するサメの仲間で、東部太平洋を除く全世界の熱帯～温帯域に広く分布しています。本種は胎生で、産まれた時点で 60～80 cm もあることが知られています。この個体は約 1 m ほど大きいですが、幼魚であると考えられます。

コクチフサカサゴ *Scorpaena miostoma*

NSMT-P 154083, 体長 115.2 mm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年7月25日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。似た仲間とは、口が小さいこと、体高が低く頭部の後ろが盛り上がらないこと、側線が胸鰭の上で急カーブしないこと、胸鰭の付け根が皮膚にも鱗にも覆われないことなどで見分けられます。岩礁域の周辺に生息し、最大で 13 cm ほどに成長します。

ヤセオコゼ *Minous pusillus*

NSMT-P 154086, 体長 24.0 mm, 銚田市玉田沖,
2025年4月17日

ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。似た仲間とは、前鰓蓋骨(頬にある骨)の一番上の棘が長いこと、背鰭の軟条数が9～11であることなどで見分けられます。日本の太平洋沿岸では、これまで相模湾が北限として知られていました。砂底や砂泥底に生息する、最大 5 cm ほどの小型種です。

ニラミアマダイ *Opistognathus iyonis*

NSMT-P 154094, 体長 68.3 mm, ひたちなか市
那珂湊沖, 2025年11月12日

イワシ・サバの漁場探索調査において、釣りで混獲されました。似た仲間とは、前部の背鰭棘先端が二又しないことや、上顎後端の内側に黒色斑があることなどで見分けられます。日本の太平洋沿岸では、これまで東京湾や相模湾が北限として知られていました。浅海の砂礫底に生息しています。



ヒゲソリダイ *Hapalogenys nigripinnis*

NSMT-P 154089, 体長 79.2 mm, 銚田市玉田沖,
2025年7月24日

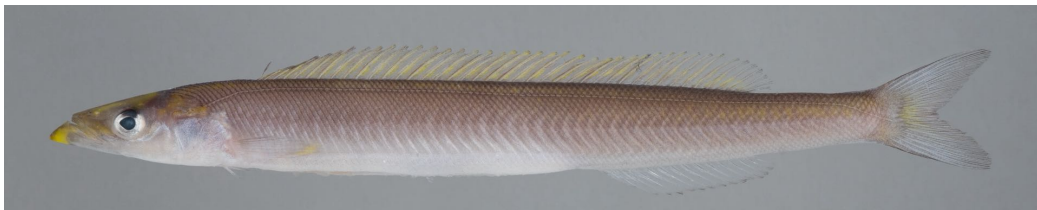
ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。下顎にヒゲがありますが、よく似たヒゲダイに比べるととても短く、「ひげ剃り」ダイなものも納得です。ヒゲダイとは、上顎の後ろの方に鱗があることなども異なります。砂泥底域に生息し、最大で 30 cm 以上に成長します。



オオニベ *Argyrosomus japonicus*

NSMT-P 154085, 体長 409.5 mm, ひたちなか市
平磯沖, 2025年9月18日

イセエビを刺網で採捕する調査において混獲されました。大型に成長するイシモチの仲間で、全長は最大で 1.5 m を超えます。西日本では栽培漁業の対象となることもあり、釣りの対象魚としても人気です。河口や岩礁域、砂浜などに生息し、本県沖の遊漁においても、たまに釣獲されるようです。



タイワンイカナゴ

Bleekeria mitsukurii

NSMT-P 154090,
体長 123.5 mm, 鹿島沖,
2025年7月4日

シラスに混じって漁獲されたものを漁業者の方からお譲りいただきました。本種はいわゆる「こうなご」(標準和名:イカナゴ *Ammodytes japonicus*)とは別種の魚で、腹鰭があること、背鰭軟条数が40~43、臀鰭軟条数が14~17と少ないことなどで区別できます。これまで日本の太平洋沿岸では相模湾が北限として知られていました。



ゲンコ *Cynoglossus interruptus*

NSMT-P 154088, 体長 72.3 mm, 銚田市玉田沖,
2025年6月16日

ヒラメの新規加入量調査において、ソリネットで混獲されました。よく似た仲間が多いですが、眼がある側の側線が2本であること、吻が丸く短いこと、背鰭軟条数が105~114、臀鰭軟条数が81~91であることなどで見分けられます。これまで日本の太平洋沿岸では、千葉県銚子が北限として知られていました。泥底から砂底に生息し、最大で 15 cm ほどに成長します。



キビレカワハギ *Thamnaconus modestoides*

KPM-NR 268165, 全長約 38 cm, ひたちなか市
那珂湊沖, 2025年9月9日

那珂湊漁協での水揚物調査にて、写真を撮影させていただきました。標本として残してはいませんが、体側が一様に灰色で模様がないうこと、鰓の切れ込みが眼の前半部の下方にあることなどの特徴から、キビレカワハギと同定しました。これまで、日本の太平洋沿岸では、相模湾が北限として知られていました。

(定着性資源部 外山太一郎)

【次回予告】R8.2.6発行の「水産の窓」は、「冬季底魚資源調査結果」を予定しています。